



第92期  
年間

# 株主通信

2008年4月1日～2009年3月31日まで

株式会社マンドム

証券コード: 4917

## 企業理念

### 基本理念

美と健康を通じ、快適な生活にお役立ちする

### 経営理念

生活者発・生活者着  
全員参画経営  
社会との共存共栄

### 企業行動指針

1. 価値向上考働
2. 自己実現考働
3. 収益性向上考働
4. 倫理的考働
5. 取組先協働考働
6. 環境保全考働
7. 社会貢献考働



代表取締役 社長執行役員

西村 元延

株主の皆さまへ	02
事業推進の概況	06
財務諸表(連結)	11
財務諸表(単体) & 株主還元の基本方針	13
株式の状況 & 会社概要	14

株主の皆さまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

また、日頃の温かいご理解とご支援に厚く御礼申し上げます。

第66期(1983年3月期)よりスタートした中期経営計画は、第92期(2009年3月期)より第9次中期3ヵ年経営計画(MP-9)を迎えました。

当社グループは、中長期の経営戦略の中核を「グループ事業の持続的成長」におき、グループ事業規模の段階的な拡大に向け、計画的な経営資源の投下により収益の持続的な拡大を目指しております。

その方針のもと、MP-9においては、「新たな安定成長領域づくり

により、今後の持続的成長を軌道に乗せるための中期経営計画」と位置づけ、「コア事業である男性グルーミング事業の安定的な成長」「新たな成長領域として位置づける女性分野(女性コスメタリー事業・女性コスメティック事業)の成長路線づくり」「成長エンジンとして位置づける海外事業の継続的な拡大」を戦略テーマとし推進しております。

以下、第92期(2009年3月期)業績についてご報告申し上げます。

### 第92期(2009年3月期)業績の概況

当期は、上期において原油高・資源高、下期において米国の金融危機に端を発した世界経済の悪化の影響により、国内においても内需が冷え込み、化粧品業界は厳しい収益環境となりました。当社グループが展開しているアジアにおいても、世界経済の悪化の影響により、高い成長から一転し景気の減速感がみられます。また、アジアの通貨についても急激な現地通貨安となりました。

このような状況のもと、当社グループは持続的な成長の実現に向け、コア事業である男性グルーミング事業の安定成長、女性分野の成長路線づくり、海外事業の継続的な拡大に取り組んでまいりました。

#### ■ 連結売上高について

連結売上高 **551億78百万円**(前期比 2.0%減)

#### 国内における売上の低迷や

海外における急激な現地通貨安にともなう

円換算額の目減りにより減収

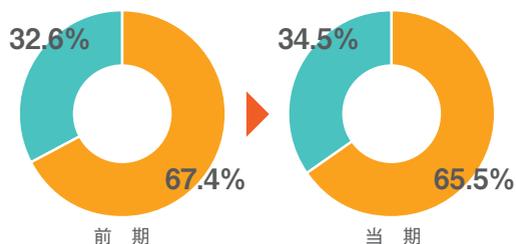
連結売上高は前期より11億10百万円減収の551億78百万円(前期比2.0%減)となりました。

国内では、女性コスメティック事業が好調に推移したものの、男性グルーミング事業が、「ルシード」の低迷、国内市場の急激な市場の悪化にともなう既存品の売上の低迷により伸び悩み、女性コスメタリー事業が、女性用白髪染めブランド「プロデュース」の落ち込みにより低迷した結果、4.8%の減収となりました。

海外では、男性グルーミング事業が主力ブランド「ギャツビー」を中心に好調に推移し、女性コスメティック事業も順調に売上を伸ばしたことにより、一部地域を除き現地通貨ベースでは二桁成長と順調に推移しましたが、急激な円高により3.9%の増収となりました。この結果、連結売上高における海外の売上比率は34.5%となり、前期より1.9ポイント増加しました。

#### 連結地域別売上高構成比推移

■ 海外 ■ 国内



#### ■ 連結利益について

連結営業利益	49億26百万円 (前期比 28.0%減)
連結経常利益	51億75百万円 (同 22.8%減)
連結当期純利益	30億11百万円 (同 14.0%減)

#### 販売費を低減させたものの 売上原価率の上昇により減益

連結営業利益は、マーケティング費用の効率化により販売費を低減させたものの、原油高・資源高、海外の現地通貨安による原材料価格の大幅な上昇や、国内における返品が増加等による売上原価率の上昇により、前期より19億11百万円減益の49億26百万円(前期比28.0%減)となりました。

連結経常利益は、会計基準の変更にとまない、たな卸資産廃棄損が営業外費用から売上原価計上に変更となり営業外費用が減額し、営業外損益がプラスに転じたため、前期より15億28百万円減益の51億75百万円(前期比22.8%減)となりました。連結当期純利益は、税制改正にともなう「外国子会社配当金の益金不算入制度」の導入により法人税等調整額が減額し、減益幅が減ったため前期より4億88百万円減益の30億11百万円

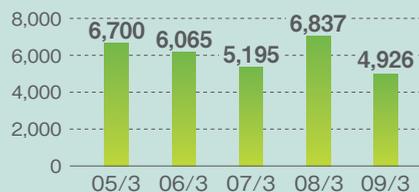
#### 売上高

(百万円)



#### 営業利益

(百万円)



#### 経常利益

(百万円)



(前期比14.0%減)となりました。

なお、配当は、通期業績が大幅に計画未達であったことに加え、今後の見通しが不透明であることから、前期より20円減配し、期末配当金を1株あたり20円、年間で60円(連結での配当性向47.4%)となりましたことをご報告させていただきます。

## 第93期(2010年3月期)業績の見通し

2010年3月期は、前期急激に悪化した経済環境が回復・好转することが望めないと想定しており、国内化粧品業界における環境の厳しさは増していくと思われ、またアジアにおいても、景気の鈍化や現地通貨安の進行は続くものと想定されます。

このような状況の中、「ギャツビー」を中心とする男性グルーミング事業の安定成長、好調に推移する女性コスメティック事業の成長加速、現地通貨ベースにおける海外事業の成長に向けて、継続して取り組んでまいります。

## ■ 連結売上高見通し

連結売上高 **537億円**(前期比 2.7%減)

### 好調・堅調に推移する

男性グルーミング事業・女性コスメティック事業・  
海外事業に注力

連結売上高は、国内では、「ギャツビー」をはじめとしてフェイス&ボディカテゴリーの展開強化により男性グルーミング事業を伸長させることに加え、女性コスメティック事業のアイテム拡充、展開によるさらなる成長により増収を見込んでおります。しかし、海外は「ギャツビー」を中心として継続強化することにより現地通貨ベースで二桁成長を目指すものの、アジア通貨安の影響で円換算額ベースが大きく目減りし減収を見込んでおります。結果、連結売上高は537億円(前期比2.7%減)を見込んでおります。

## 当期純利益

(百万円)



## 自己資本当期純利益率 (ROE)

(%)



## 1株当たり当期純利益 (EPS)

(円)



### ■ 連結利益見通し

連結営業利益	<b>51億50百万円</b> (前期比 4.5%増)
連結経常利益	<b>53億円</b> (同 2.4%増)
連結当期純利益	<b>28億円</b> (同 7.0%減)

### 売上原価率が上昇するものの コストの抜本的な見直しに取り組み

連結営業利益は、現地通貨安・原材料価格の高止まりによる原材料価格への影響があるものの、内製化等による原価低減活動の継続強化、A&P費用のさらなる効率化、一般管理費の徹底的な見直しにより、コストパフォーマンスの向上に取り組み、51億50百万円(前期比4.5%増)と増益を見込んでおります。

なお、連結営業利益、連結経常利益は増益を見込んでいるものの、連結当期純利益は、前期に発生した、税制改正の影響により減益を見込んでおります。

第93期の配当金につきましては、第92期と同じく1株あたり年間60円(中間30円、期末30円)を予定しております。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも格別のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2009年6月



代表取締役 社長執行役員 **西村 元延**



## 男性グルーミング事業

男性の日常の身だしなみやおしゃれ全般に使用する商品群で、安定成長を目指すマダムグループのコア事業です。

グループのコア事業である男性グルーミング事業のグループ売上高は前期比3.9%の減収となりました。

### 【国内】

国内は、主力ブランドである「ギャツビー」が既存商品の売上が落ち込む中、夏シーズン品の好調が寄与し、前期比ではほぼ横ばいで推移したものの、「ルシード」の低迷により減収となりました。

「ギャツビー」は、商品面ではヘアスタイリングカテゴリーにおいてもっとも使用率が高く今後も有望な剤型であるヘアワックスの強化を図るため、「ムービングロックスプレー」を発売しました。また、フェイス&ボディカテゴリーにおいて市場が伸びているボディケア（7ページ※1参照）について展開強化を図るために「バイオコア デオドラントスプレー」「パウダーデオドラントスプレー」「アイスデオドラントスプレー」「フレグランスデオドラントスプレー」において追加アイテムを発売し、商品を拡充しました。



「ギャツビー  
ムービングロックスプレー  
エクストラハード」



「ギャツビー  
フレグランスデオドラントシリーズ」



「ギャツビー デオドラントシリーズ」

マーケティング面では、引き続きイメージキャラクターに「木村拓哉」さんを起用し、認知・拡大を図るとともに、店頭においても連動した展開を図っています。



引き続き「木村拓哉」さんを起用



広告に連動した店頭展開

また、生活者に「ギャツビー」をより身近に親しみを感じてもらうために、「ギャツビー学生CM大賞」「ギャツビースタイルダンスコンテスト」等の生活者参加型イベントを開催しました。



ギャツビー学生CM大賞2008授賞式



ギャツビー  
スタイルダンスコンテスト

「ルシード」は、「スタイリッシュシリーズ」の不振により低迷していますが、商品面、マーケティング面の見直しを図り、今後マーケットの拡大が見込めるミドル層に対し、生活者のウォンツにあった提案をしていきます。

## 事業推進の概況

### 【海外】

海外は、「ギャツビー」を中心に好調に推移し、現地通貨ベースで二桁成長していますが、急激な円高により円換算額ベースで減収となりました。

「ギャツビー」は、商品面については各国の生活者ウォンツにあわせた商品展開を行い、マーケティング面では、各国において「ギャツビープロジェクト」の継続実施やCM展開などにより、ブランドの認知・拡大やイメージ向上を図りました。

また、韓国・香港で「ギャツビー学生CM大賞」、インドネシア・マレーシア・シンガポール・韓国・香港・台湾で「ギャツビースタylingダンスコンテスト」を行い、グループ展開エリアでの生活者との「絆」づくりを図りました。



アジア展開地域で「ギャツビースタylingダンスコンテスト」を開催

※1

マンダムは、「心地よい清涼感」の研究と、その研究結果を応用した商品開発を行っています

マンダムでは、化粧品の機能とともに使用感を重視し、人の「快と感じるさまざまな要素」について研究しています。その一環として、製品使用時の「清涼感」について研究し、適切に評価する技術を独自に確立しました。これにより、男性にとって快適な清涼感の領域を見出し、製品開発に応用しています。なお当期は、「清涼感に関する男女の差」に関する研究成果を発表しました。詳しい内容は、ホームページをご覧ください。

<http://www.mandom.co.jp/release/2008/src/2008120803.pdf>

## 女性コスメタリー事業

ヘアスタイリングやフェイス&ボディケアなど、日常の身だしなみやおしゃれに使用する商品群で、新たな成長領域として成長路線づくりを目指す事業です。

女性コスメタリー事業のグループ売上高は、前期比14.1%の減収となりました。

### 【国内】

国内は、「ルシード エル」が全面リニューアルにより堅調に推移したものの、「プロデュース」の落ち込みにより減収となりました。

「ルシード エル」は、昨秋の「ヘアスタイリングシリーズ」のリニューアルに続き、今春「ヘアカラーシリーズ」のリニューアルを行いました。商品面では、従来品に比べ機能面を向上させ（8ページ※2参照）、パッケージデザインを大きく変えることでイメージの一新を図りました。

マーケティング面では、引き続きイメージキャラクターに「木村カエラ」さんを起用し、雑誌掲載やウェブサイト等を効率的に活用したコミュニケーションを実施しました。また、それらと連動した店頭展開を図ることにより、生活者の方との接点拡大に努めました。

「プロデュース」は、今後も女性用白髪染め市場の成長が見込めるため、中長期で戦略を見直します。



引き続き「木村カエラ」さんを起用



店頭展開

## 【海外】

海外は、ティーンフレグランスライン「ピュセル」が順調に推移したものの、為替のマイナス影響で減収となりました。

商品面では、インドネシアを中心にASEAN地域で展開している「ピュセル」において、新シリーズ「フォーシーズンズ」を発売しました。マーケティング面では、CMの投下や、これに連動した店頭における積極的な展開などを図り、認知・拡大に努めました。



日本の四季をイメージしたフレグランスシリーズ  
「ピュセル フォーシーズンズ」

※2

### 素早く塗れて、ムラなく染まる 「ミルクジャム処方」

マンダムでは、自分で仕上りを調整できる事を求める生活者ウオantzに対応すべく研究を重ね、従来品よりもタレ落ちずに髪に塗りやすく、かつ高い染毛機能を保ちながら、簡単に短時間で染め上げる事ができる「ミルクジャム処方」を開発しました。この処方を今春発売した「ルシード エル ミルクジャムヘアカラーシリーズ」に採用しています。



「ルシード エル ミルクジャムヘアカラーシリーズ」

## 女性コスメティック事業

メイクアップやスキンケアなど  
女性のビューティーライフに彩りを添える商品群で、  
新たな成長領域として成長路線づくりを目指す事業です。

女性コスメティック事業のグループ売上高は、前期比5.6%の増収となりました。

## 【国内】

国内は、新しいカテゴリへの拡充と商品ラインナップの強化が順調に進んだことにより好調に推移し、増収となりました。

商品面では、メイクアップカテゴリにおいて新たなベースメイク商品として「ファンデーション エクスプレス」を発売しました。また、スキンケアカテゴリの展開強化として「クレンジングエクスプレス」及び「バリアリペア」の2シリーズに追加アイテムを発売しました。



「ファンデーション エクスプレス」



「クレンジングエクスプレス」



「バリアリペア」

マーケティング面では、主に雑誌やウェブサイト、電車内広告等を媒体として、より効率的なコミュニケーションを図るとともに、**広告と連動した店頭展開**を図っています。



機能訴求を中心とした店頭展開

## 事業推進の概況

### 【海外】

海外は、スキンケア・メイクブランド「ピクシー」がメイクを中心に好調に推移し、増収となりました。

「ピクシー」はインドネシア市場で重点強化を図っており、継続したCMの投下や店頭での生活者との接点拡大に注力しています。



インドネシアにおける店頭展開

### 海外で活かされる 国内で培ったスキンケア分野の技術

- マンダムでは、スキンケア分野の技術開発に注力しています。
- なかでも、水ベースのクレンジングである「クレンジングエクスプレス」は化粧水機能を備えたクレンジングとして国内市場で受け入れられ、高い評価を受けています。
- この処方を活かした商品が、インドネシアにおいて2009年春に発売されました。「ピクシー」において、全面リニューアルとなった「UVホワイトニングシリーズ」と、新シリーズ「アクネブライツシリーズ」では、コアアイテムとなっています。
- マンダムでは、今後も国内で培った技術を応用し、海外各国のニーズ・ウォンツに合わせた女性コスメティック商品を展開していく予定です。

## 海外事業

今後も高い成長が望める海外事業は、引き続きグループ経営の成長エンジンとして位置づけ、前中期経営計画にて戦略展開してきた累積効果を活かし、各国の市場環境に適応した展開強化を行っています。

### 各国とも高成長を維持するも

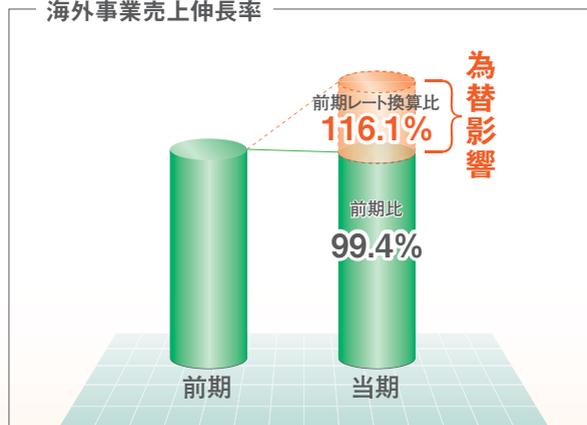
### 為替の影響をうけて伸長幅が大きく目減り

海外事業は、アジア通貨の下落によるマイナス影響で、円換算額ベースでのグループ売上高が大きく目減りし、前期比0.6%の減収となりました。

しかしながら、各国とも自国の特性に合わせたマーケティング展開を継続したことにより、一部の地域を除いて現地通貨ベースでは概ね順調に推移し、売上規模を拡大しています（前期レート換算比116.1%）。

また、連結売上高における海外売上高比率は、為替の影響をうけたものの、前期よりも上昇し、グループにおける貢献度はさらに高くなっています。

### 海外事業売上伸長率



### 重要拠点のインドネシアは成長を継続

海外の重要拠点であるインドネシアでは、男性グルーミング事業のコアブランドである「ギャツビー」の継続成長や女性コスメタリー事業の「ピュセル」の好調さに加え、女性コスメティック事業における「ピクシー」が伸長したことで、インドネシア国内の売上規模はさらに拡大しています。

また、輸出専用商品を発売した貿易事業では、継続した展開強化を進めた結果、順調に事業規模を拡大しています。



フェイス&ボディカテゴリーの強化として追加発売した「ギャツビー デオドラントロールオンシリーズ」

### 中国は成長を目指した展開強化

インドネシア以外の各国でも、「ギャツビー」を中心に、自国特性に合ったマーケティング展開を継続したことで売上規模が拡大しています。なかでも、最重点国として位置づけている中国では、**専用商品**を発売するとともに、認知拡大を目的に現地で人気の高いタレントを起用したCM展開するなど、引き続きターゲット層にあった商品の投入やマーケティング展開を行っています。



中国専用商品の一つとなる「ギャツビー クイックスタイリングシリーズ」

IR  
インフォメーション

### 首都圏の拠点効率化にともなう固定資産譲渡について

当社は、2009年3月に首都圏の拠点効率化にともない固定資産の譲渡を行いました。

首都圏における営業活動のより一層の効率化を図るために、営業拠点を再編し、それにとまない首都圏の固定資産を譲渡しました。

### 配当について

当期の年間配当は、前期より20円減配し1株につき60円としました。

これは、通期計画が大幅に未達成であったことに加え、不透明な経済環境、急激な為替変動、競争激化等の厳しい経営環境に対応するためです。

### 自己株式取得について

当社は、2009年5月13日開催の取締役会において、自己株式取得に係る事項を決議いたしました。資本効率の向上および今後の経営環境変化に対応した機動的な資本政策を遂行するため、自己株式の取得を行います。

2009年5月19日から2009年7月24日の期間において550,000株（発行済株式総数に占める割合2.3%）、10億円を上限に自己株式取得を実施します。

mandom

## 財務諸表(連結)

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

### POINT ①

金融市場のリスクに対応し、資金運用を長期から短期にシフトしました。

### POINT ②

営業拠点の効率化を目的に、首都圏の固定資産を売却しました。

### POINT ③

海外における現地通貨安による為替の影響、国内における有価証券の時価評価での目減りにより、減少しました。

### POINT ④

会計基準の変更により、たな卸資産廃棄損が原価計上となり、営業外費用が減少しました。

### POINT ⑤

首都圏の固定資産売却により、売却損・売却益等が発生し、特別利益・特別損失が増加しました。

### POINT ⑥

税制の改正にともなう外国子会社配当金益金不算入制度の導入により、法人税等調整額が減額しました。

※この税制の改正にともなう影響は当期のみとなります。

### POINT ⑦

固定資産売却による収入が発生しました。

### POINT ⑧

配当金の支払額が増加しました。

## 連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科目	当 期 2009年3月31日現在	前 期 2008年3月31日現在
<b>(資産の部)</b>		
① 流動資産	29,319	26,271
固定資産	19,758	27,947
② 有形固定資産	11,484	15,359
無形固定資産	739	491
① 投資その他の資産	7,534	12,096
資産合計	49,078	54,218
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	5,148	6,716
固定負債	1,550	1,633
負債合計	6,698	8,349
<b>(純資産の部)</b>		
株主資本	45,539	44,806
資本金	11,394	11,394
資本剰余金	11,235	11,235
利益剰余金	23,865	23,129
自己株式	△ 956	△ 953
③ 評価・換算差額等	△ 6,007	△ 2,471
少数株主持分	2,847	3,534
純資産合計	42,379	45,868
負債純資産合計	49,078	54,218

### 連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科目	当期	前期
	2008年4月1日から 2009年3月31日まで	2007年4月1日から 2008年3月31日まで
売上高	55,178	56,289
売上原価	24,920	23,930
売上総利益	30,257	32,358
販売費及び一般管理費	25,331	25,521
営業利益	4,926	6,837
営業外収益	442	495
4 営業外費用	193	628
経常利益	5,175	6,704
5 特別利益	808	67
5 特別損失	1,147	107
税金等調整前当期純利益	4,836	6,665
法人税、住民税及び事業税	1,811	2,738
6 法人税等調整額	△ 472	△ 123
少数株主利益	486	550
当期純利益	3,011	3,499

### 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円)

科目	当期	前期
	2008年4月1日から 2009年3月31日まで	2007年4月1日から 2008年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,458	7,614
7 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,204	△ 5,040
8 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,045	△ 1,659
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 834	△ 69
現金及び現金同等物の増減額(△減少)	△ 625	843
現金及び現金同等物の期首残高	9,791	8,783
連結範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△減少)	69	163
現金及び現金同等物の期末残高	9,235	9,791

### 連結株主資本等変動計算書 — 当期(2008年4月1日から2009年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2008年3月31日残高	11,394	11,235	23,129	△953	44,806	156	△2,627	△2,471	3,534	45,868
在外子会社の会計処理の変更に伴う増減			△35		△35					△35
当期変動額										
剰余金の配当			△2,140		△2,140					△2,140
当期純利益			3,011		3,011					3,011
自己株式の取得				△3	△3					△3
自己株式の処分		△0		0	0					0
連結範囲の変動			△98		△98					△98
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						△784	△2,751	△3,535	△686	△4,222
当期変動額合計	—	△0	771	△3	768	△784	△2,751	△3,535	△686	△3,454
2009年3月31日残高	11,394	11,235	23,865	△956	45,539	△628	△5,378	△6,007	2,847	42,379

## 財務諸表(単体)

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

### 貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	2009年3月31日現在	2008年3月31日現在
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	21,079	17,334
固定資産	23,790	29,801
有形固定資産	8,703	11,269
無形固定資産	344	310
投資その他の資産	14,742	18,220
資産合計	44,870	47,135
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	4,035	5,617
固定負債	1,222	1,166
負債合計	5,258	6,783
<b>(純資産の部)</b>		
株主資本	40,243	40,199
資本金	11,394	11,394
資本剰余金	11,235	11,235
利益剰余金	18,570	18,522
自己株式	△ 956	△ 953
評価・換算差額等	△ 630	152
純資産合計	39,612	40,351
負債純資産合計	44,870	47,135

### 損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	2008年4月1日から 2009年3月31日まで	2007年4月1日から 2008年3月31日まで
売上高	37,316	38,859
売上原価	16,776	16,717
売上総利益	20,540	22,141
販売費及び一般管理費	17,734	18,072
営業利益	2,805	4,069
営業外収益	1,019	750
営業外費用	154	397
経常利益	3,670	4,421
特別利益	794	20
特別損失	1,131	101
税引前当期純利益	3,333	4,340
法人税、住民税及び事業税	1,049	1,818
法人税等調整額	94	△ 198
当期純利益	2,189	2,720

## 株主還元の基本方針

### 》》 配当に関して

当社は、株主の皆さまに対する利益還元を経営の重要政策として位置付け、中長期的な事業拡大、新規事業開拓及び企業リスク対応のための内部留保に配慮しつつ、配当金による株主還元を優先的に実施することを基本方針としており、連結ベースでの配当性向40%以上を目標としてまいります。

#### 配当金



#### 配当利回り



※ 東証一部上場企業(無配企業を含む)の化学業種平均(各年3月末日現在)  
出所:東京証券取引所「東証統計月報」

### 》》 株主優待に関して

当社は、株主の皆さまに対する利益還元の一環として、株主優待を行っております。100株以上の株式を所有(3月31日現在)の皆さまに、年1回5,000円相当の当社詰め合わせを、6月初旬にお届けしております。優待商品は、株主の皆さまからのご要望・市場での動向を踏まえ、新製品を中心に当社のお奨めする商品を選定しております。

株主の皆さまに、当社商品をお使いいただき、マンダムをより身近に感じていただきたいと考えております。



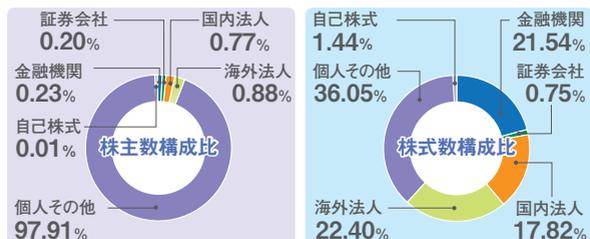
2009年実施  
株主優待  
詰め合わせ

## 株式の状況

### 株式の状況

[2009年3月31日現在]

- 発行可能株式総数 81,969,700 株
- 発行済株式総数 24,134,606 株 (うち自己株式347,860株)
- 株主数 19,143 名
- 株式分布状況



### 大株主

[2009年3月31日現在]

氏名又は名称	持株数 (千株)	出資比率 (%)
(財)西村留学生奨学財団	1,800	7.57
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	1,204	5.07
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	1,105	4.65
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口4G)	1,032	4.34
西村 元延	1,005	4.23
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	1,004	4.22
西村 輝久	801	3.37
マンダム従業員持株会	700	2.94
資産管理サービス信託銀行(株)(証券投資信託口)	514	2.16
BNP PARIBAS SEC SVC LONDON/JAS/ABERDEEN INVESTMENT FUNDS ICVC/AGENCY LENDING	487	2.05

(注) 持株数は千株未満で切り捨てています。  
出資比率は自己株式を控除して計算しています。

### 株価推移



## 会社概要

### 会社概要

[2009年3月31日現在]

- 社名 株式会社マンダム
- 本社 大阪府大阪市中央区十二軒町5番12号
- 設立 1927年12月23日
- 資本金 11,394,817,459円
- 従業員 516名(連結2,280名)
- 事業内容 化粧品、香水の製造および販売  
医薬部外品の製造および販売

株式会社マンダムはISO14001(福岡工場)とISO9001(本社・福岡工場)を認証取得しています。

### 取締役および監査役

[2009年6月23日現在]

代表取締役	社長 執行役員	西村 元延
代表取締役	副社長 執行役員	亀井 浩
取締役	専務 執行役員	西海 義勝
取締役	常務 執行役員	山田 憲治
取締役	常務 執行役員	桃田 雅好
取締役	常務 執行役員	斉藤 嘉昭
社外取締役	取締役	塚田 彊
社外取締役	取締役	田村 敏和
常勤監査役	監査役	樋口 俊人
常勤監査役	監査役	安井 博史
社外監査役	監査役	小寺 一矢
社外監査役	監査役	高木 進

### グループ会社

#### ● 国内

[2009年3月31日現在]

- 株式会社ピアセラボ
- 株式会社ギノージャパン
- 株式会社ビューコス(2009年4月1日に株式会社エムビーエスと合併)
- 株式会社エムビーエス ※1

#### ● 海外

[2009年3月31日現在]

- PT Mandom Indonesia Tbk インドネシア
- Mandom Corporation (Thailand) Ltd. タイ
- Mandom Philippines Corporation フィリピン
- Mandom (Malaysia) Sdn. Bhd. マレーシア
- Mandom Corporation (Singapore) Pte Ltd シンガポール
- Mandom Taiwan Corporation 台湾
- Sunwa Marketing Co., Ltd. 中国(香港) ※2
- Mandom Korea Corporation 韓国
- Zhongshan City Rida Fine Chemical Co., Ltd. 中国(中山)
- Mandom China Corporation 中国(上海)

※1 非連結子会社 ※2 持分法適用関連会社

## ■ 株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月開催
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日  
期末配当金 毎年3月31日  
中間配当金 毎年9月30日  
〔そのほか、必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日〕

### 【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主さまは、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主さまは、下記の電話照会先にご連絡ください。

- 単元株式数 100株
- 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
- 株主名簿管理人事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
- 郵便物送付先 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
- 電話照会先 ☎ 0120-176-417
- ホームページアドレス <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html/>
- 公告の方法 当社のホームページに掲載します。  
<<http://www.mandom.co.jp/>>  
ただし、事故その他のやむを得ない事由の場合は、日本経済新聞に掲載します。
- 株主優待 毎年3月31日現在の100株以上所有の株主さまに対し、5,000円相当の当社製品を6月初旬に贈呈します。
- 上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部

### 【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用していなかった株主さまには、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といえます。)を開設いたしました。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。



<http://www.mandom.co.jp/>

お問い合わせ先

**株式会社マンドム 広報IR室**

〒540-8530

大阪市中央区十二軒町5番12号

Tel:06-6767-5020 Fax:06-6767-5043



環境に配慮し、大豆油インキと再生紙を使用しております。

